



一貫コース通信

思い込んだら試練の道を行くが男のど根性。

4月から6年ぶりに一貫コースに戻り、戸惑いの日々を送っている。私が一貫コースで教えることになることは全く頭になかった。6年間(私の中では6年以上)受験指導(私の考える受験指導)から離れていた。進学教育に関心を持たないようにしており、ここ数年はほとんど関心がなくなっていた。そしてなにより情熱がなくなっていた。このまま進学指導をやることなく定年を迎えるつもりでいた。そしてそのことに何の不満もなく、第二の人生に進むつもりだった。そんな中でも、一貫コースから東大合格ができたことだけには嬉しさを感じた。進学教育に興味なくなっているにも東大合格だけは別格だった。だからといって自分が受験指導に関わりたいとは思わなかった。一度それも長い期間受験指導から離れていた私にはもう無理だと思っていた。そして指導する自信もなかった。難関大学合格が難しいことは誰よりも知っているつもりだ。それに私の受験指導方法は厳しいようで今の時代には合っていないようにも思っていた。2月の末ごろだったと思うが校長先生と教頭先生から一貫コースでの担当を打診され、驚いた。もちろん、上記の理由やこれまでのいきさつなどからお断りした。

しかし、4月になり一貫コースに勤務することになった。何度も言うが本当にやっていく自信がなかった。直接言われた訳ではないが東大、旧帝大、医学部に合格できるようにしなければと思えばなおさら不安が増すばかりだった。やらねばと思い、勉強すればするほど自分の実力の無さを痛感した。極端に言わせてもらえば一日中数学を考えているような気がする。それでも不安が減るわけではなかった。ただ毎日が大変だと感じている一方で目標に向かうやりがいも感じている部分もあった。努力が必ず報われる訳ではなく、報われないことも覚悟はしている。ただもっとやれたはずだとか、もっとやればよかったとかの後悔はしたくない。それに努力しているのは私だけではない。若手教師の授業レベルの高さ、学級経営が以前の私と似通っていたりと、彼らの頑張りは私の頑張りの原動力になっていることは間違いない。

根性論は嫌い、根性論は古い、根性論は馬鹿げているなどと根性論が否定的な見方がされて久しいが、もう私にはそれしかない。

